

平成29年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

1 大村益次郎の生涯を読む（補遺）

— 当館蔵「大村益次郎文書」から —

※No. 41 「永敏卿書簡」

其後此等所法
事一也 移氣云々

ト申候

此等者七月廿七日東
京奈良本曾路通

り 慶事一六月十三

日 意念 御 候 儀

用有立本目ニ下

校者又法用起

出外功月一先

上京六月十五日

氏去帳ニ而帰リ

ト申候

○此等様并然

平 帰 候 儀

如 所 様 候 儀

已 上 様 候 儀

女房より 帰る

上へ見まへて候へ

と申し候はれなり

早と決度

りのふり候

〇たし丹十四番

向ふりたしみ

の島へは教の

手紙はたしみ

の森、申のふり

よふり候

二月廿日

善徳印

終

喜の降一比之に
しは 功を三ヶ
八

東京義経事三

公道の度

公家 栗栖何系

中子可一

原子委因人

かひ知つたの

天子様も来儿

廿八日

清忠 輩

中村河原を非味

玉一人に箱立

戦争に真の度

名田吾一 石目

出部 功度

たうた 吉五

青山 彦三 信長

大槻 玄俊 甚々

きのめ ぐ 家内

中 真 可 小 子 げ

五 五 五 五

大槻玄俊も甚々
きのかぐし家内
中一奥河内
まゝり彦

板根知安彦
伏見し調練場
こけり彦

原田若一の家内
和比野一一人
西河内列下又
此部一東京山で
るん中下り彦

東京知もとの江
戸に終入諸大名
し河内不之付

香河正外無名
由家入の家も皆

こ之けちし彦
神京河内

盗人らも
たぐらん

香河植系凡の
切安も之よたし

香河五外集
出家して家も皆

こまけとて一
巻

神奈川

盗人に

たぐ

香河植来尼の

切安と云ふは

我々の老

いし

〇高の子

多

我

〇五月廿九日の

か

る

五月廿九日

琴水

明也 昔方 四丁 时 收
上 於 法 在 長 行

兵 國 續 殺 乃 不

法 既 在 乃 在 乃 何

頂 蓋 乃 乃 乃 乃 乃

法 乃 乃 乃 乃 乃 乃

明 朝 亦 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

野 部 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

○ 厨様 何事 承

申上 月 日 迄 申 上

申 上 迄 申 上

留 上 迄 申 上

○ 申 上 迄 申 上

有 上 書 状 申 上

申 上 了 山 上 荒

川 上 迄 申 上

申 上 迄 申 上

申 上 迄 申 上

申 上 迄 申 上

申 上 迄 申 上